

日本

貿易統計 (2020年1月)

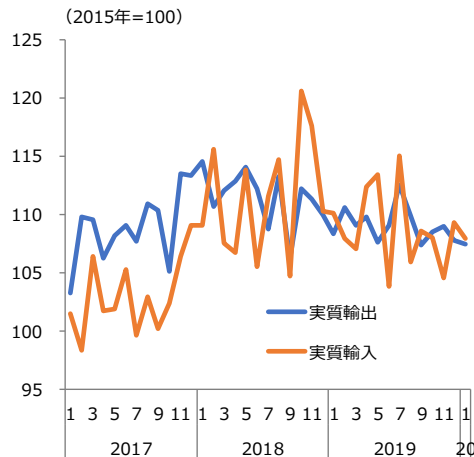
輸出は低調、新型肺炎の影響は今後顕在化

政策・経済研究センター

綿谷謙吾

03-6858-2717

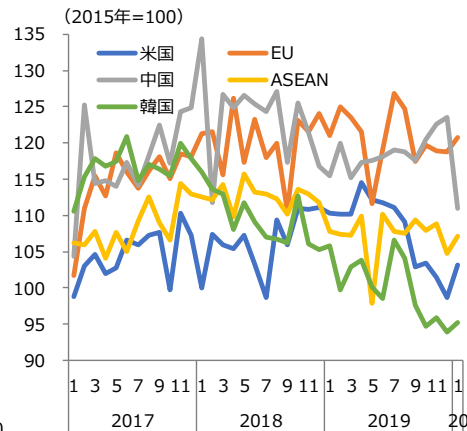
1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

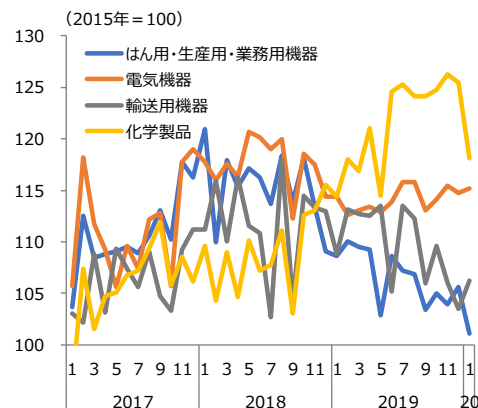


評価ポイント

今回の結果

- 20年1月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比▲0.3%、実質輸入は、同▲1.2%となった（図1）。貿易収支（季節調整値）は、▲2,241億円と、7カ月連続で赤字。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、持ち直しつつあった中国向けが大きく減少し、その他の国・地域は増加した。中国向けは春節の影響もあり、前月比▲10.1%と4カ月ぶりに減少。中国向け輸出シェアの高いはん用・生産用・業務用機械や化学製品が大きく減少した。新型肺炎の影響は1月時点では大きくないとみられる。19年半ばから減少傾向にあった米国（同+4.6%）は3カ月ぶりに増加。減少傾向にあった輸送用機器が増加し、全体を押し上げた。米国内の自動車販売がやや回復したことが背景とみられる。韓国（同+1.4%）向けは減少傾向にある（図2）。
- 品目別では、19年半ば以降減少傾向にあった輸送用機器が増加（同+2.7%）。一方、増加傾向にあった化学製品（同▲5.9%）が大きく減少した（図3）。

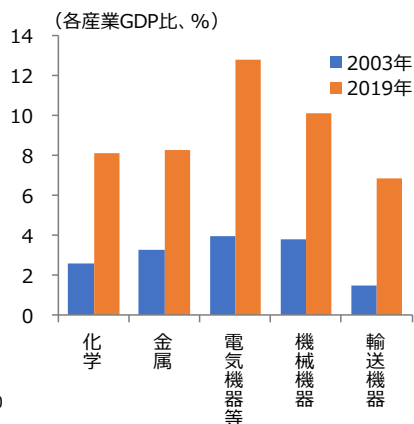
3 実質輸出：品目別



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 産業別中国向け輸出比率



注：財・サービス輸出やインバウンド消費を含む。

出所：OECD「TiVA」、IMF「World Economic Outlook」、財務省「貿易統計」より三菱総合研究所推計

基調判断と今後の流れ

- 輸出は海外経済の成長減速などを背景に、18年後半以降、緩やかな減少傾向にある。
- 先行きの輸出は、低調な推移が続くとみる。特に、20年前半は新型肺炎の影響から、持ち直しの動きがみられていた中国向け輸出（輸出の約2割）を中心に、減少するだろう。2003年のSARSの時と比較し、日本経済の中国依存度は高まっている。電気機器等の製造業では中国向け輸出比率が高まっており、中国経済が減速した場合の影響は大きい（図4）。
- ただし、20年後半以降は、新型肺炎の感染拡大が終息すれば、海外経済の持ち直しや半導体関連需要の回復を背景に、輸出は緩やかながら回復すると見込む。
- さらなる下振れリスク要因として、新型肺炎の影響長期化がある。中国向け輸出の減少だけではなく、中国からの部品調達難による他の国・地域向け輸出の停滞にもつながる。